

“英語道”を通じて出会うことのできた“知”

「けいことは一より習い十を知り十より帰るもとのその一」（利休百首より）

この言葉は、先日、茶道の先生より贈られたものです。

私が師事している茶道の先生は、茶の湯の“道”に入られて50年以上経ちますが、現在でもご自分の師である90歳近い先生の下で週に一度お稽古をつけていただいているそうです。そして、「まだまだ勉強が足りません」と真剣な顔でおっしゃった後、常に心に置いているという大切な言葉を贈って下さりました。



この言葉の意図することを文字通り解釈すると、“常に初心を忘れずに基本と向き合う大切さ”であると思います。しかし、この言葉の中には、もう少し深い意味があり、そこに茶道の先生から私に対するメッセージが隠されているのではないかと感じ、私なりの考察を

試みたところ、英会話道場イングリッシュヒルズでの学習と非常に関連性が高いことに気づきました。特に、生井先生が常々おっしゃっている“鉄の壁”が真っ先に思い浮かびました。

自分自身を磨き抜き、「理想の自分像」に向かって自分を成長させ、自分を上げていく人の面前には、常に「鉄の壁」が存在します。鉄の壁に屈することなく、毎日、全力で前に進みその壁を乗り越えたとき、人は、自分自身のステージを高め、より理想に近い境地に到達することができます。しかしその後、またすぐに、人は、またべつの「鉄の壁」を面前とし、その壁の"高さ"・"厚さ"に圧倒されることとなります。この時、さらに前に進み「自分を高めたい」と切望する人は、また再び、その鉄の壁を乗り越えようと必死で努力に努力を重ねます。壁に屈することなく努力に努力を重ねた人は、やがてその壁を乗り越えますが、その後も、そうした人の面前には、実に"半永久的に"、新しい「鉄の壁」が現れ続けます。

生井利幸『「生きる」ということは難しい、そして、「働く」ということも難しい』

2012年1月10日、講師の心.com

http://www.koushinococoro.com/magazine/business/namai_shouri/120110_002766.html

上記は、Extra Homework 1の教材でもあり、ご承知の通り「生きる」と、「働く」との難しさが述べられています。しかし、それだけではなく、分野を問わず、全ての“学ぶ者”に対しての基本姿勢が示されているのではないのでしょうか。この考えは、茶道においても、そのまま当てはまります。

「けいことは一より習い十を知り十より帰る “もとのその一”」

“鉄の壁”の考えを適用すると、“もとのその一”は、努力と覚悟を持って全力を尽くした者だけが経験することのできる特別な境地であると同時に、一段階アップグレードした自分と新たな“鉄の壁”との戦いがはじまる“一”でもあると解釈できます。

どんなに強い意志を持っていても、“道”を進むことは容易ではありません。そこにはいくつもの“鉄の壁”が立ちはだかり、“安易な道”への誘惑が数多くあります。しかし、“鉄の壁”が存在することを幸いと捉え、それを乗り越えようとするプロセスを味わい、楽しむことが自己実現への“道”であることを、生井先生から教えていただきました。さらに、その“道”は、誰かが作った道を辿るのではなく、暗闇の中を歩きながら自らの力で作り出すもの。

前回のレッスンにおいて、“道”について講義して下さった際の生井先生の臨場感あふれる描写を、ぜひ他の受講生のみなさんと共有させていただきたいと思います。

Of course it is not easy. It is not easy. You first need such courage to knock the door. After opening the door, is that a bright place? It is a dark place, I think.

You are in your confusion in such darkness all the time. So day by day, night by night, you try to go on and I'm not sure when. Is that a half a year later? One year later? 2 years later? Some more years later, you'll see a light then you happen to see some sort of wisdom on your own. Is that a thing after opening the door, can you see the light?

There is no light. It is quite a dark place. In the darkness you try to go on.

Where is a way? Where is a way?

Way is not find, way is to make. There is no way in the darkness.

Where is a way?

Way is after going forward, you make a way.

Where is a way?

If you find a way, it is not your way. You are following something made by human being. It is a man-made way. I think you need to make your own way.

After fighting with difficulty then you'll make your way.

Way is made after fighting with your difficulty.

That's a way for me to go. It is not your way. You just follow it. You don't make anything original.

Then you can make sense, you are ready to make your sense to live here as one of individuals here on this planet.

私は、生井先生から上記の講義を受けた際、今、現在、この地球に存する一個の個人として与えられた“生”を全うするために、自分の“道”をしっかりと踏みしめて歩いて行きたい心から思いました。

正直に申し上げますと、英会話道場イングリッシュヒルズに入門する前の私にとって、茶道はお稽古事の一つであったかもしれません。もちろん、茶の湯の世界が好きだから続けてきましたが、稽古の間では、美しい“立ち居振る舞い”や、正しい“所作”といった表面的なことに心が向いてしまっていた側面もありました。本当に大切なのは、“立ち居振る舞い”や、“所作”の根底にある本質であるのにも関わらず・・・。

しかし、英会話道場イングリッシュヒルズで生井先生のご指導を受けて勉強を続けていくうちに、茶室が小宇宙に変わり、一つひとつの稽古での経験が深く心に刻まれ、より茶の湯の精神を理解したいという気持ちが強くなりました。自分自身の心のステージや視点の持ち方によって、見えてくる世界が全く変わったといえます。私の変化が茶道の先生にも伝わったのか、今では、私を本当の娘のように可愛がって下さり、食事や旅行をご一緒するなどプライベートにおいても親密な心の交流を図る機会が多くなりました。

茶の湯の世界に存在する“知”の一端に触れることができたのは、生井先生のご指導の下、“英語道”での学習経験があったおかげです。英会話道場イングリッシュヒルズに入門させていただいたからこそ、茶道だけではなく、私の人生における様々な経験を一つひとつより深く味わえるようになりました。これからも自分の生活のあらゆるところに隠れている“知”と触れ合う機会が増えるよう、“理性”と“感性”を駆使して、私なりの“道”を歩んでいくつもりです。

今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。